

ところ会 OP-4 行事案内

田無と東大農場

今回は、西武線田無駅を出発し、神社仏閣を歩き東大の演習林を散策し田無駅に戻り、遅めの昼食をとるコースを選んで見ました。コースの途中にある古木も鑑賞しながら歩いてみたいと思います。尚、このコースは西東京市の推奨コースを踏襲しています。

記

■日 時：令和1年10月24日（木）

8:40 までに所沢駅新宿線ホーム・エレベーター付近に集合して下さい。

8:49 発西武新宿駅行急行に乗車します。

■見学場所及び時間：コース全長約 約 5.0km（ブログから）

所沢駅 8:49 西武新宿行急行に乗車・・・田無 9:07 着⇒9:40 駅発⇒
田無神社⇒總持寺⇒東大農場⇒六角地藏尊⇒東大演習林⇒田無小学
校⇒昼食⇒田無駅(解散：予定時間 14:30 頃)

■交通費 所沢～田無 420 円

□昼食：武蔵野食堂創作（イタリアンとパスタ）

東京都西東京市田無町 4-3-13

電話：050-5868-1409

□：訪問先簡単ガイド

□：田無神社

田無神社の創建は、鎌倉時代後期の正応年間(1228年-1293年)と伝わり、同社は田無北部の谷戸の宮山に鎮座し、尉殿大権現（じょうどのだいごんげん）と呼ばれ、龍神を祭神としていた。

江戸時代初期、徳川家康が江戸幕府を開くにあたり、城や町の建造のために大量の石灰を必要とした。家康は、



石灰を青梅の地に求め、青梅街道を開いたが、その際、肥沃な谷戸の住人が南の青梅街道沿いに移住し、宿場町・田無を造営した。この動きの中で、1622年(元和8年)、宮山に鎮座する尉殿大権現が上保谷に分祀され、1646年(正保3年)、宮山から田無(現在地)に分祀され、1670年(寛文10年)、宮山に残っていた尉殿大権現の本宮が田無に遷されました。

1872年(明治5年)、尉殿大権現は熊野神社、八幡神社を合祀、田無神社と社名を改めた。その際、主祭神・大国主命と須佐之男命、猿田彦命、八街比古命、八街比売命、日本武尊命、大鳥大神、応神天皇をも祀り、現在に至っています。

□：養老田碑（市指定第7号）

総持寺の創建年代は不詳ですが、元和年間(1615-1624年)、法印権大僧都俊栄和尚が、谷戸に法界山西光寺として創建、慶安年間(1648-1651年)、現在地へ移転したと伝えられています。江戸時代(1603-1868年)、尉殿権現社(現・田無神社)の別当寺を勤めていた。明治8年(1875年)、西光寺と近隣の密蔵院、観音寺の3寺が合併して創建し、田無山総持寺と改称した。



□：總持寺（田無不動尊）

総持寺(旧西光寺)の創建年代は不詳ですが、元和年間(1615-1624年)、法印権大僧都俊栄和尚が、谷戸に法界山西光寺として創建、慶安年間(1648-1651年)、現在地へ移転したと伝えられています。江戸時代(1603-1868年)、西光寺は尉殿権現社(現・田無神社)の別当寺を勤めていました、明治8年(1875年)に近隣の密蔵院、観音寺とあわせて3寺が合併して創建し、田無山総持寺と改称しました。

関東三十六不動尊霊場の第10番札所に数えられ、多摩八十八ヶ所霊場の第33番札所でもあります。東京百景にも選ばれています。



西光寺(現・総持寺)本堂は、天保11年(1840年)、築後140~150年を経たため、本堂建て替え計画が持ち上がり、西光寺の住職恵亮や田無村名主下田半兵衛が中心となり準備が進められた。嘉永3年(1850年)、本堂は完成し、普請成就供養が行われた。その落成を記念して、境内にケヤキほか数種の樹木を植栽し、その中の一樹が境内にある大ケヤキであると言い

伝えられています。

□：石幢六角地蔵尊（市指定第1号）

所沢街道や鎌倉街道などが交差する五叉路である「六角地蔵尊交差点」には、交差点脇に市指定第1号文化財である「石幢六角地蔵尊」が建っています。もとは六差路であった所沢街道の北側に、1779（安永8）年に建立されたもので、六角柱の石像の各面に



地蔵尊とそれぞれの道の方向が刻まれており、道標として道行く人に行く先を教えている。六面であることから、六道（地獄道・餓鬼道・畜生道・修羅道・人道・天道）の輪廻から人々を救済する地蔵様としても信仰を受けていました。江戸時代の交通事情を今に伝える、西東京市の貴重な遺産です。



石幢六角地蔵尊は道標でもあり六差路でその各道は南沢道、前沢道、所沢道、小川道、保谷道、江戸道であります。

□：東大農場と東大演習林

東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構・田無演習林は、東京大学の研究教育施設であり、学習目的以外の見学は出来ません。

農場は面積 22.2ha、演習林は面積 9.12ha と広大。かつては東大農場と呼ばれていたが、機構改革により現在名称へと変更になりました。

農場内には作物見本園、果樹園、温室などがあり、食糧生産・エネルギー等の確保と、環境や物質循環との調和・両立を図るために、生物生産の持続性、環境ストレス耐性に関する研究が行われている。また、農場内には明治時代からの農機具などを展示する施設である農場博物館があります。



田無演習林では、自然観察のために平日に構内を公開する他、新緑や紅葉の時期には、年に数回、休日にも公開し、毎年 1 万人以上の一般見学者

が訪れています。

一方、演習林は市民の憩いの場並びに社会・自然教育の場としても開放されており、小学生の野外学習や一般市民の散策など訪れる人は数多い。

農場と演習林の中にはポプラ並木やサイロなども点在し、都市化が進む周囲の環境の中で牧歌的な風景をつくっている。

□：東大農場博物館：

市民ボランティアのサポートで運営されるこの博物館では、近現代の農機具などを展示しています。今回の予定日は木曜日で見学は出来ません。

□：田無小学校と古木・巨木

田無小学校の周辺には西東京市で選ばれた市の古木・巨木 50 選の内 4 種の木が選ばれていますので、観察してみたいと思います。

NO	木の名前	高さ (M)	幹周り (CM)	コメント
43	イチョウ	30	323	創立以来校庭で学童を見つめる
44	カシワ	10	100	校章に使用の由緒ある木
45	ピンオーク	28	190	葉の形が独特と人気がある
46	プラタナス	18	225	校庭を見おろす堂々とした大木

